令和２年度　地区中学校教育課程研究会　提案資料

部会名　総則

令和２年度　神奈川県中学校教育課程研究会
＜研究主題－総則＞
学習指導要領の内容を踏まえた教育課程の編成と教育活動の工夫・改善

＜テーマ＞
自立・共生・創造に向けて豊かな心を持つ生徒の育成を目指した教育実践
～防災教育を含めた、自己有用感を育む教育活動～

地区名　県央地区

所属校　座間市立栗原中学校

氏　名　香西　浩志

※ 写真は、すべて提案資料への掲載の許諾を得ています。

※ 今回の提案は、前任校の座間市立西中学校の取り組みについて
まとめたものです。

目　次

１．学校概要 ――――――――――――――――― 1
（１）学区の概要
（２）本校のあゆみ
（３）本校の授業

２．学校経営方針 ――――――――――――――― 2 ～ 3
（１）グランドデザイン（学校教育目標、目指す生徒像・教師像等）
（２）重点的な取り組み（重点目標、学校活性化に向けた１０項目）

３．研究テーマの設定 ――――――――――――― 4 ～ 6
（１）研究テーマ設定の理由
（２）新学習指導要領や神奈川県中学校教育課程研究会との関連

４．具体的な取り組み ――――――――――――― 7 ～ 15
（１）校内研究の体制
（２）校内研全体の流れ
（３）校内研の具体的な取り組み

５．研究のまとめ ――――――――――――――― 16 ～ 17
（１）研究の成果
（２）今後の課題

参考資料 ――――――――――――――――――― 18 ～ 19
【資料①】「目指す生徒像」職員まとめ
【資料②】「全校生徒アンケート」集計結果

１．学校概要

（１）学区の概要

座間市は首都圏の４０ km 周囲内に位置し、人口約１３万人、世帯数約６万世帯、面積約１８ km^2 の小規模な新興都市である。

本校は市の西部に位置し、西方に大山連峰を眺望できる相模川流域に沿った低地の水田地帯の中にある。学区には、神社・仏閣や農家も多く自然に恵まれた環境にあり、古くからの伝統や文化を継承する風土が残っている地域である。保護者の教育に寄せる関心は高く、地域も協力的で、地域と連携した活動を積極的に実践している。生徒数はここ数年６００名弱で推移している中規模校であり、生徒はのびのびと学校生活を送っている。

（２）本校のあゆみ

昭和４２年４月、座間中学校に続いて市内２番目の中学校として開校。

ここ最近１０年間では、以下のような研究事業を行った。

平成１９年　問題を抱える子ども等の自立支援事業委託（国）

平成２４年　かながわ学びづくり推進地域研究委託事業（県）

平成２４、２５年　学習指導実践研究協力事業（国）

平成２５、２６年　教育課程等推進委託（市）

　研究テーマ「自ら考え判断し主体的に学ぶことのできる生徒の育成」

平成３０、令和元年　教育課程等推進委託（市）【今回の発表】

（３）本校の授業

平成３１年４月現在のクラス数は、各学年５クラス、特別支援学級４クラスの計１９クラス、生徒総数５６９名である。

１学年英語と２学年数学を少人数クラスで授業を行っている。本格的な学習が始まる１学年英語で、英語の楽しさを感じさせ基礎の定着を図るために少人数指導を実施した。数学は学習内容が難しくなる２学年で、理解の深化を図るため少人数授業を実施した。

また、通常級にいながらも支援の必要な生徒に対しては、主に１学年の生徒を中心に支援員がサポートしている。

さらに、不登校傾向の生徒が登校した場合、職員が分担して個別学習を必要に応じて毎日３時間程度実施している。

2．学校経営方針

（1）2019 年度 座間市立西中学校グランドデザイン

座間市教育大綱：豊かな心を育むひまわりプラン

【学 校 教 育 目 標】

自立	共生	創造
自ら学び、考え、実践する（自己実現）	他を尊重しながら共に生きる（豊かな心の育成）	豊かな人間性を養う（個性の発見・伸長）

【今 年 度 の 重 点 目 標】

社会性を身に付け、感謝と思いやりの心を持ち、自主的に取り組む生徒の育成

【目指す教師像】
学び続け自ら変わろうとする教師

【目指す生徒像】
規範意識を高く持ち、自主的に行動できる生徒

【信頼される学校づくり】
―総務部・地域連携部―
★教員としての自覚と責任
★地域に貢献できる生徒の育成

【豊かな心・豊かな人間性の育成】
―生徒指導・支援部―
★他人を思いやる心の育成
★ルールの徹底等、規範意識を育む

【自己有用感と確かな学力の育成】
―特活・学習指導部―
★自己有用感を育む生徒主体の教育活動
★『主体的・対話的で深い学び』の実践

【教職員の資質・授業力向上】
―研究・研修部―
★向上心を持ち自己研鑽に励む
★『続ける教師集団』と位置づけ
自ら変わろうとする意欲を持つ

【安心・安全な学校づくり】
―保健・安全部―
★避難訓練の工夫、事前学習の充実
☆防災教育を通して命の大切さを伝える

【より良い教育環境づくり】
―管理・美化部―
★美化活動の充実を図る
☆安全点検の徹底と早期改善に努める

【保護者・地域と共につくる学校】

西中学校区健全育成連絡協議会　地域行事への参加　小中連携（合同研修会）
懇談会・三者面談・コミコミスクール　ひまわり畑　PTA 環境整備・パトロール

すべての生徒が居心地の良さを感じ、安心して楽しく学べる学校づくり

（2）座間市立西中学校　2019年度重点的な取り組み

【2019年度重点目標】

社会性を身に付け、感謝と思いやりの心を持ち、

自主的に取り組む生徒の育成

【身に付けさせたい資質・能力】

☆規範意識を高く持ち、当たり前のことが当たり前にできる生徒

○感謝と思いやりの心を持った生徒

○自分で、時には仲間と考え判断し、自主的に行動できる生徒

○主体的に学習に取り組む生徒

学校活性化に向けた１０項目（★）のミッションと指標	
【総務・地域連携部】 信頼される学校づくり	★教員としての自覚と責任を持ち、ビジョンを持って取り組む ★地域に貢献できる生徒の育成（ひまわり・各ボランティア活動） ○積極的な情報発信（各種便りの内容充実・Ｈ．Ｐの活用等） 【指標】学校は保護者・地域の願いを把握している 生徒・教育活動の様子を分かりやすく伝えている
【生徒指導・支援部】 豊かな心・豊かな 人間性の育成	★思いやりを持って接することのできる生徒の育成 ★挨拶・言葉づかいルールの徹底等、規範意識を育む ○ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりの発信 【指標】学校に行くのが楽しい・人が困っている時は進んで助ける
【特活・学習指導部】 自己有用感と 確かな学力の育成	★自己有用感を育む生徒主体の教育活動に努める ★『主体的・対話的で深い学び』の実践 ○チャイムアウトの見直しと取り組みの徹底 ○拡大評議会等によるによるリーダー育成 【指標】授業に積極的に楽しく参加している・活躍できる場面がある
【研究・研修部】 教職員の資質向上・ 授業力ＵＰ	★向上心を持ち自己研鑽に励み、授業力・生徒指導力のレベルアップに努める ★目指す教師像を『学び続ける教師集団』と位置付ける 【指標】研修への積極的参加・内容の周知報告
【保健・安全部】 安心・安全な学校づくり	★避難訓練の工夫、事前事後学習の充実 ○防災教育を通して、命の大切さを伝える ○食に関する感謝の心を育てる 【指標】『学校の安全管理と危機管理』・『学校防災計画』の理解
【管理・美化部】 より良い教育環境づくり	★美化活動の充実（清掃マニュアルの徹底と実践） ○情報教育の推進 ○安全点検の徹底と早期改善に努める 【指標】施設管理・環境美化の推進に努める

３．研究テーマの設定

＜テーマ＞
自立・共生・創造に向けて豊かな心を持つ生徒の育成を目指した教育実践
～防災教育を含めた、自己有用感を育む教育活動～

（１）研究テーマ設定の理由

座間市では、平成１６年度から「豊かな心の育成」を学校教育の重点主題とし、その後平成２３年度には「豊かな心を育むひまわりプラン」が策定された。

また、「第２期座間市教育大綱」の施策の一つとして『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、指導方法の工夫や改善に取り組み、わかる授業の充実を推進、同時に主体的に学ぶ態度を育て、学習の基礎・基本を定着させる』ことが謳われた。

本校では「自立（自ら学び、考え、実践する）・共生（他を尊重しながら共に生きる）・創造（豊かな人間性を養う）」という３つのキーワードを掲げ、学校教育目標としてきた。

さらに、座間市の施策を受け、重点目標を「社会性を身に付け、感謝と思いやりの心を持ち、自主的に取り組む生徒の育成」と定めた。

研究実践前の本校生徒の様子として、体育祭や文化祭などの学校行事は大いに盛り上がりを見せ、集団での取り組みについては積極的に参加しているが、個人的な取り組みにおいて、時として自信のなさそうな遠慮がちな行動が見られた。

このような生徒の実態を踏まえ「クラス・学年・授業・行事・部活動等の教育活動において自己有用感を高める活動を様々な場面で意図的に取り入れ、そこで育まれた自己有用感が、自立・共生・創造に向けて豊かな心を持つ生徒の育成につながることができるであろう。」という仮説のもと、研究に取り組んだ。

（２）新学習指導要領や神奈川県中学校教育課程研究会との関連

中学校学習指導要領（平成２９年告示）　第１章　総則

第２　教育課程の編成

２　教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

（２）各学校においては，生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考

慮し，豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を，教科等横断的な視点で育成していくことができるよう，各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。【p.21】

第３　教育課程の実施と学習評価

１　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

（１）第１章の３の（１）から（３）までに示すことが偏りなく実現されるよう，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

特に，各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり，思考力，判断力，表現力等や学びに向かう力，人間性等を発揮させたりして，学習の対象となる物事を捉え思考することにより，各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し，生徒が各教科等の特質に応じた見方･考え方を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。　【p.23 ～ 24】

子供同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかとういデザインを考えることに他ならない。　【解説　総則編　p.78】

（２）第２の２の（１）に示す言語能力の育成を図るため，各学校において必要な言語環境を整えるとともに，国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて，生徒の言語活動を充実すること。あわせて，（７）に示すとおり読書活動を充実すること。　【p.24】

例えば，教師との関わりに関係することとして，⑤教師と生徒，生徒相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくること，⑥生徒が集団の中で安心して話ができるような教師と生徒，生徒相互の好ましい人間関係を築くことな

どに留意する必要がある。　【解説 総則編 p.82】

第４　生徒の発達の支援

１　生徒の発達を支える指導の充実

（１）学習や生活の基盤として，教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため，日頃から学級経営の充実を図ること。また，主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと，個々の生徒の多様な実態を踏まえ，一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により，生徒の発達を支援すること。　【p.25】

令和２年度　神奈川県中学校教育課程研究会　総則

［研究主題］

学習指導の内容を踏まえた教育課程の編成と教育活動の工夫・改善

［趣旨］

各学校においては，生徒に「生きる力」を育むことをめざし，特色ある教育活動を展開する中で，知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の能力を育むとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い，個性を生かす教育の充実に努める必要がある。

そのための地域や学校の実態及び生徒の発達の段階や特性を十分考慮した，適切な教育活動の編成の工夫・改善について研究する。

＜主に次の点について具体的に研究する＞

①　学習指導要領の内容を踏まえた特色ある教育活動の編成の工夫・改善

②　個に応じた指導の一層の充実，学習意欲の向上や家庭と連携した学習習慣の確立等，確かな学力の育成を図る教育課程の編成の工夫・改善

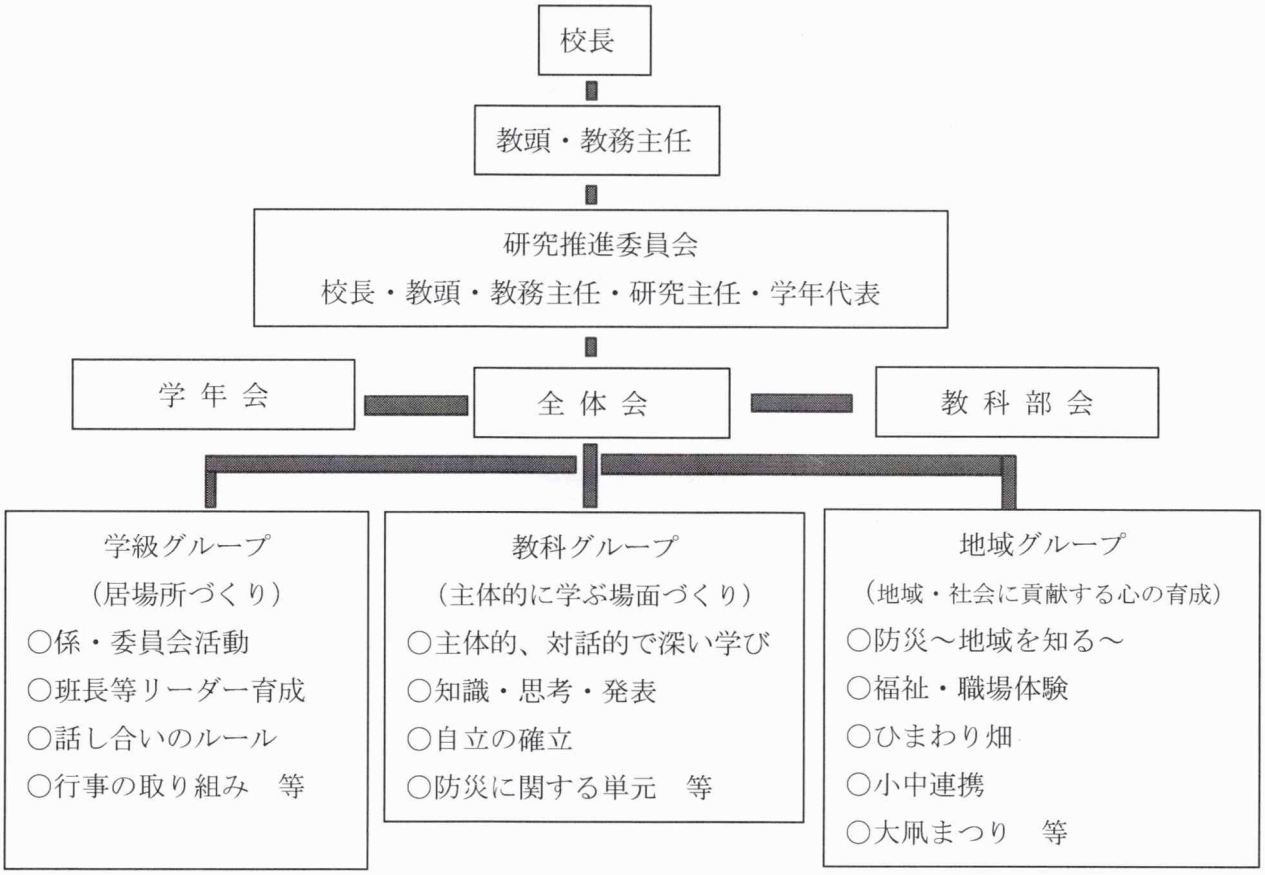
③　全国学力・学習状況調査等の結果の分析とその分析結果を踏まえた教育課程の編制の工夫・改善

４．具体的な取り組み

（１）校内研究の体制

校内研究では、「学級」「教科」「地域」の３つのグループに分かれ、指導案検討会、研究授業の実施、グループ討議、講師によるテーマに沿った講演・演習などを通して、自己有用感をいかに高めることができるかという課題に向き合い、研究を重ねてきた。

「学級グループ」では、生徒一人ひとりの居場所づくり、「教科グループ」では、生徒の参加・取り組みやすい授業の展開、「地域グループ」では、地域貢献する力の育成というテーマを掲げ研究を進めた。



（２）校内研究全体の流れ

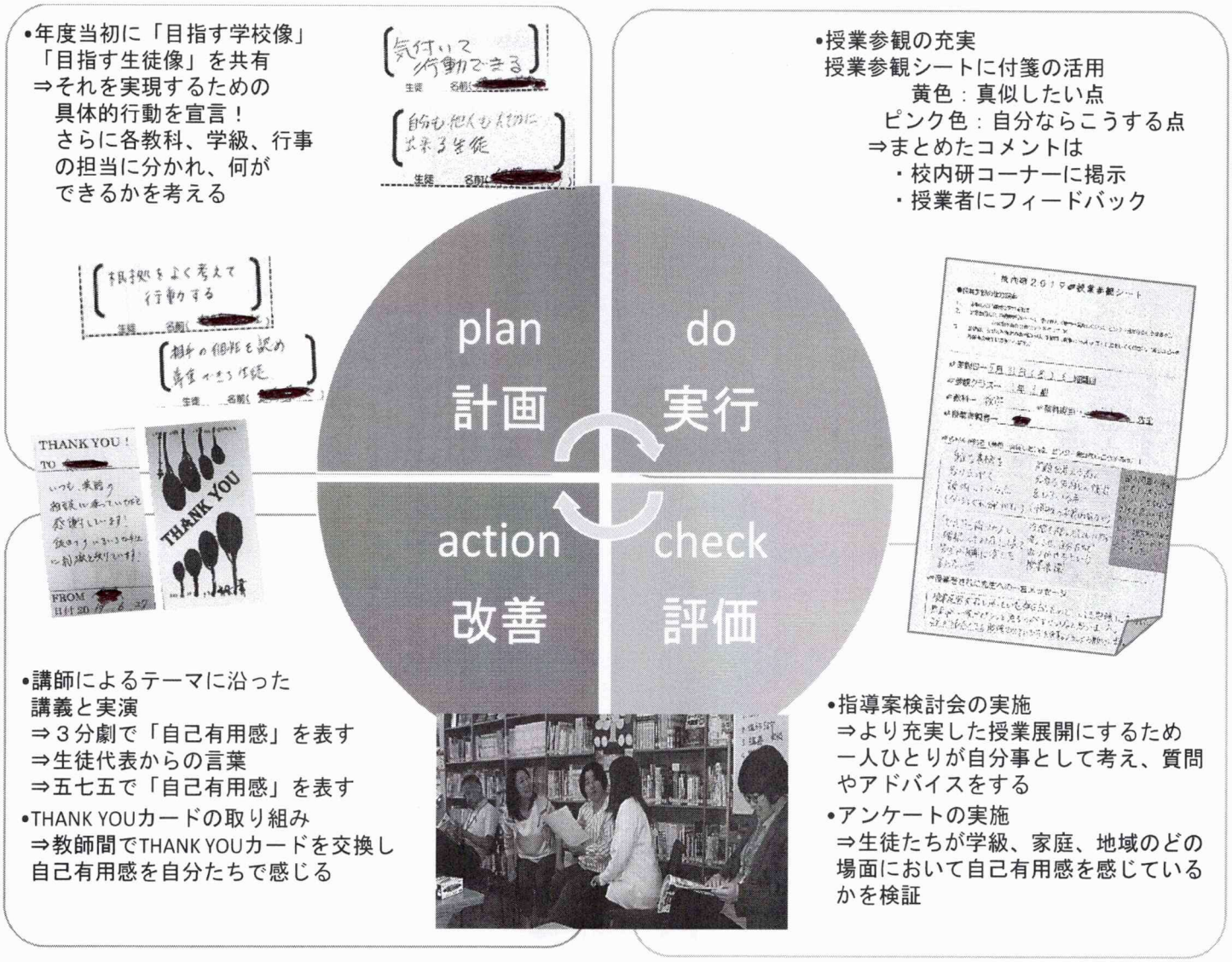
① 「研究テーマ」を全職員が共有（年度初め）

② 「今年度の目指す学校像・生徒像」を全職員が共有（年度初め）

③ 研究テーマに沿った研究授業など各グループの取り組み

④ 「研究の成果及び今後の課題」を全職員が共有（年度末）

（３）校内研究の具体的な取り組み

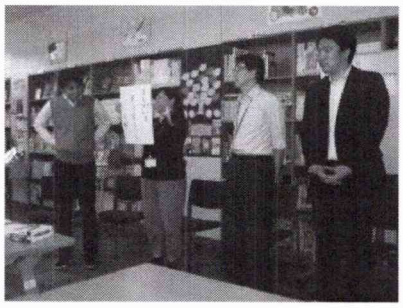


①「研究テーマ」を全職員が共有（年度初め）

「自己有用感」

平成３０年４月からの２年間、校内研究のスーパーバイザーとして横浜国立大学教育学部教授有元典文先生をお招きして講演会や研究授業のアドバイスをいただいた。講演会では、冒頭に参加職員の緊張をほぐすためのアイスブレイクや職員による寸劇形式の発表を取り入れるなど、学級開きにおける指導の参考となった。

また、「自己有用感」と「自己肯定感」の類似点や相違点を実例をあげながらわかりやすく説明し、生徒の「自己有用感」を育むために教師が「どのようにしかけるか」「みんな一緒だと安心できる場作り」などをポイントに講義していただいた。



自己有用感って何？　自己肯定感とは違いは？

「自己有用感」とは、他の人がいて初めて感じることができる「気持ち」「思い」

自己有用感	≒	自己肯定感
↓		↓
人のための自分		ありのままの自分
〔他の人との関わりの中で感じる〕		〔自分の中で感じる〕

②「今年度の目指す学校像・生徒像」を全職員が共有　※ p.18【資料①】参照

年度初めに全体会で「目指す学校像」と「目指す生徒像」を全職員でグループ討議をして出し合い、担当者が取りまとめ全職員に提示した。

③ 研究テーマに沿った研究授業など各グループの取り組み

「学級」グループ

テーマ「誰もが自信を持って参加できるクラス（居場所）づくり」

- 自己と他者を見つめ直す活動
- 絆を深める活動
- 傾聴を大事にする活動

（ア）自己と他者を見つめ直す活動

５月に「自分はどんな感じ？クラスはどんな感じ？」と言うテーマで学級活動の授業を行った。

肯定的な言葉を使うという条件で、級友に自分の印象を聞き、「他者から見た自分」、「自分が思っている自分」、「それを受けてどのようなクラスなのか」を客観的に見ることで自己有用感を高める活動である。ワークシートに相手の印象を書き込む方式で行い、生徒たちは他人から見られる自分像に新たな発見があった。生徒の感想から、他者から見た自分の存在意識を認識し、自信につなげることができた様子がうかがえた。

【生徒の感想】

・自分のことを真剣に考えてくれる人がいて良かった。
・自分自身が気づいてない性格をちゃんと見てくれる人もいるんだなと思った。
・ちゃんとわかってくれる人もいたし、うれしかった。
・人によって見方は様々なんだなと思った。まだ、あまり話したことがない人は、外見でこういう風に見られているんだなと参考になった。
・外見と性格は意外と違い、話してみないとわからないし、人は見かけによらないと分かった。

（イ）絆を深める活動

６月に「クラスの仲間との絆を深める」というテーマで学級活動の授業を行った。

自分や他者の良いところに気づき、伝え合うことで自己理解、他者理解を深める活動である。生徒たちは、まず歌を聴き、その歌詞の中に出てくる「素敵な言葉」について考えさせ、クラスで共有した。そして、日頃の感謝の気持ちを書き込む「サンキューカード」を利用して、自分では気が付かない良さを伝え合った。

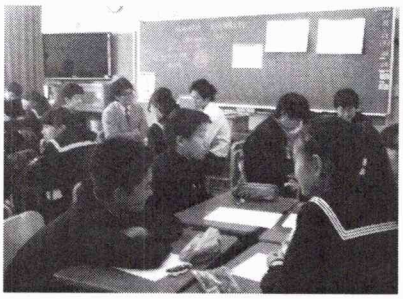
（ウ）傾聴を大事にする活動

１１月に「互いの個性を認め合い、自分自身を客観視することで良さに気付かせる」というテーマで人の話を肯定的に聞く姿勢「傾聴」に重点をおき学級活動の授業を行った。

生徒たちは、まず一つの歌詞の印象を互いに伝え積極的に相手の言っていることを聞くということを意識して行っていた。その後、他者にインタビューをして、相手のことを知り、それを他の者に伝える他者紹介を行い、人の良いところと自身の良いところに気づかせるという内容である。生徒の感想からも、日常の人との関りを増やすきっかけを生む活動であったことがうかがえる。

【生徒の感想】

・初めて『傾聴』という言葉を知った。
・グループの中にうなずきながら聴いてくれた人もいて話しやすかった。
・普段の学活でもみんなに傾聴を意識してほしい。



「教科」グループ

テーマ「自己有用感を育む授業づくり」

・一人ひとりが役割を果たすことで責任感が芽生え、自己有用感を培うことができる場面がある。
・適切な人数のグループ活動を取り入れることで共同の安心感が得られ、コミュニケーションが活発になり、多くの生徒が主体的に取り組む。
・学び合う活動を通じて多様な意見を持ちやすく、深い学びが得られ、新たな興味や関心が広がる。

事前の指導案検討

↓

授業実践

↓

研究授業後の協議（代表生徒も参加）

（ア）「３学年数学」の取り組み

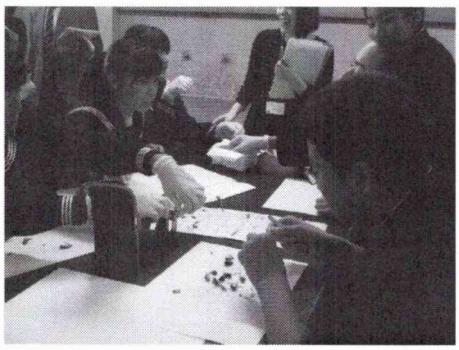
主な学習活動が計算である授業ではグループ形態の場面を設けることが難しい。「ゴールをわかりやすく示し、できる機会を増やすことで自己有用感を持てるのではないか。」という仮説のもと、「ノートに問題を作らせる。」「ノートを交換する。」という流れで学習を進めた。学習に苦戦している生徒へは「教科書の問題でも良い、自分の解ける問題を出そう。」と声をかけるなどの配慮を行った。「問題を作ることができた。」という達成感を感じる生徒が増え、また積極的な授業参加が多く見られた。

協議では、「みんなで、できる場になっていた。」などの他、ペア学習の注意点として「批判されることが苦手な生徒についての配慮」などの意見が出された。

（イ）「２学年理科」の取り組み

共同の安心感の育成の場面で、それぞれが伝え合い理解を深めるとともに、自分の役割を果たすことで自己有用感を持たせることを目指した。そこで「解剖」、もしくは「タブレット端末や写真からの調べ学習」どちらかの役割分担のもとグループ学習の形態で授業を進めた。

協議では、「解剖する教材が一人一つずつあり、全員で授業について考えていて良い。」「教師の声かけや相槌を打つなどの対応が自然で、伝え合いをする上で安心感があった。」「見て見て！わーすごい！これ調べて！などコミュニケーションが多く生まれていた。」「役割（作業・調査対象）が明確で達成感を持つことができ、自己有用感を持ちやすい。」などの意見が出された。

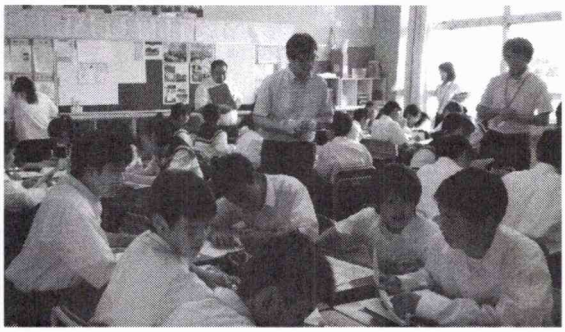


（ウ）「１学年社会」の取り組み

令和元年度は、「共同の安心感の育成の場面で意見交換しやすい、自分の意見が授業を進めていくことに気づくこと」を目指した。

そこで導入では、アイスブレークとして「時事ニュースの発表」を取り入れた。授業内容は、グループ内でアフリカについて調べ、ワールドカフェ方式で調べた内容を共有した。

協議では「自分しか知らない情報を他者に伝えることで、他者も興味を持つことができじっくり聞いていた。間近に自己有用感を実感するところを見ることができた。」「混乱する生徒も見られたが、混乱をクラスでどう解決していくのかも含めて一つの学びなのではないかと感じた。」などの意見が出た。



「地域」グループ

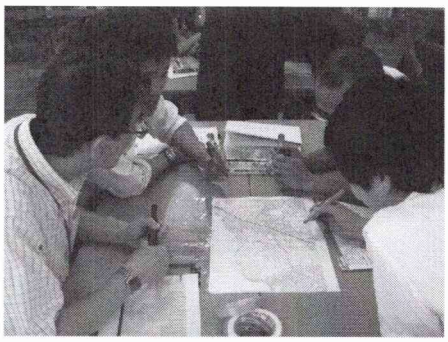
テーマ「地域との関わりを通して、社会に貢献する場づくり」

・住んでいる地域社会の一員として何ができるのかを考えさせることで、「自己有用感」を高め、さらに生徒自身の変容につながる学習を進めた。

本校ならではの特徴的な取り組みを２つ紹介する。

（ア）防災学習の取り組み

平成３０年度は２年生を中心として防災学習に取り組んだ。小学校で学んできた防災に関する体験や知識を中学校でさらに深め、そこから地域とのかかわりを意識するように指導した。



（ｉ）６月に、ＮＰＯ法人「かながわ３１１ネットワーク」から講師を招き、校内研究会で職員が『ＤＩＧ』Disaster（災害）・Imagination（想像力）・Game（ゲーム）の頭文字をとって名付けられた災害図上訓練を実際に体験。

（ii）７月の総合的な学習の時間に、各クラスで内閣府の資料「みんなで減災」を使い、災害による被害をできるだけ小さくする取り組み「地震への備え、風水害への備え、自宅で備える、地域で備える」について学習を行った。

（iii）夏季休業中に家族で災害や防災をテーマに話し合い、ジュニア防災検定に向けて「家族防災会議レポート」を作成。

（iv）９月に、ＮＰＯ法人「かながわ３１１ネットワーク」から講師を招き、２年生の各クラスで『ＤＩＧ』を実施。災害図上訓練を体験した。

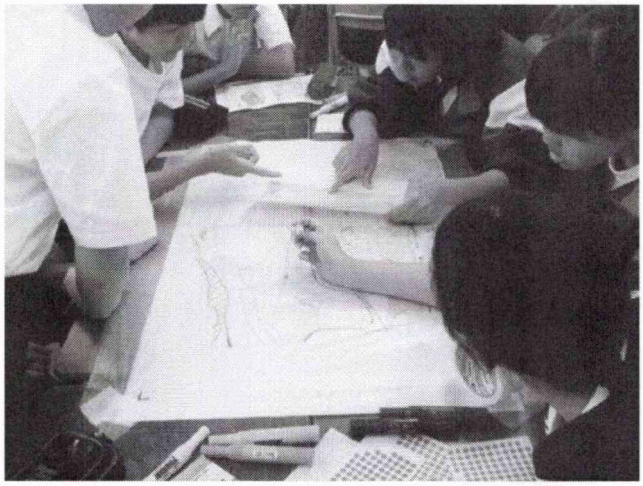
（ｖ）２学期に家庭科の防災の単元をはじめとして、防災に関連する内容を教科横断的に各教科の授業の中で取り入れた。

（vi）冬季休業中にジュニア防災検定に向けて「防災自由研究」を作成。〝防災〟をテーマに防災マップや防災新聞を作ったり、住んでいる地域で起きた災害のことを調べ「レポート」、「作文」、「ポスター」など、各自が学習のまとめとして防災に対する様々なアプローチを行った。

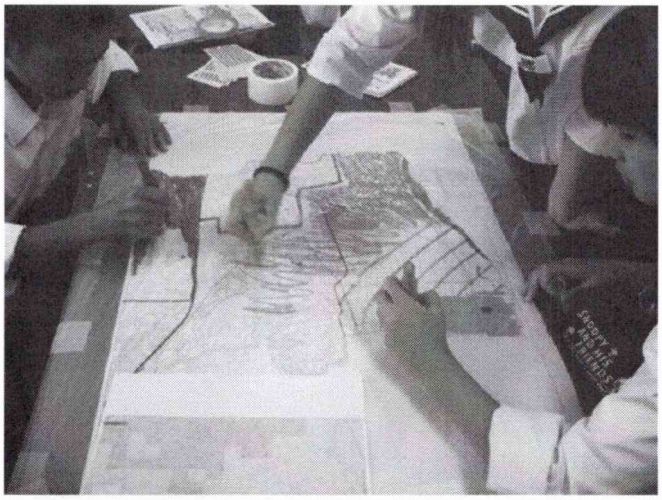
（vii）１月に、２年生でジュニア防災検定（上級）を実施。

【防災学習「ＤＩＧ」の内容】

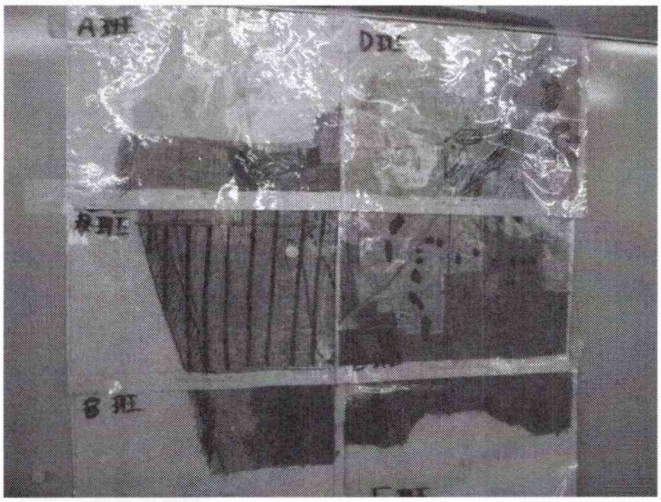
① 学区の地図に自宅や学校の印を付ける。



②「洪水浸水想定区域」を水色、「土砂災害警戒区域」を紫色で塗る。



③ 避難場所を探し、避難すべき人を確認する。



【『ＤＩＧ』を体験した生徒の感想】

・安全だと思っていた場所も災害がおこる可能性があるということを発見した。
・しっかりとマップの見方をおぼえて行動したいと思った。
・地図に危険な場所を重ねたりすると想像力がきたえられた。家族でもいろいろ話し合うことが大事。
・座間市に震度７の地震がくると、西中学校は浸水してしまうことが分かった。
・入谷小学校近くは土砂災害がおこることが分かった。災害は怖いことをあらためて知った。
・身の回りの危険を知ることができた。この辺りも災害の危険が多いことが分かった。日頃から対策をしておくことが大切だと思った。
・マップに書いていくうちに危険な地域が分かり、家の近くの避難場所も分かった。地域の危険な場所を知ったので災害時に活かしたい。

（イ）ひまわり畑の取り組み

地域の方が提供してくださる畑に生徒が種をまき、夏休みに草むしりなどの世話を行い、毎年ひまわりの花を咲かせている。長く続いている行事で、テレビ局や市の広報誌の取材を受け、広く知られるようになった。福祉常任委員とボランティアの生徒による自主的な活動の成果が、ひまわりの開花という目に見える形であらわれ、さらに地域の方に喜ばれることが、自己有用感の高まりにつながっている。

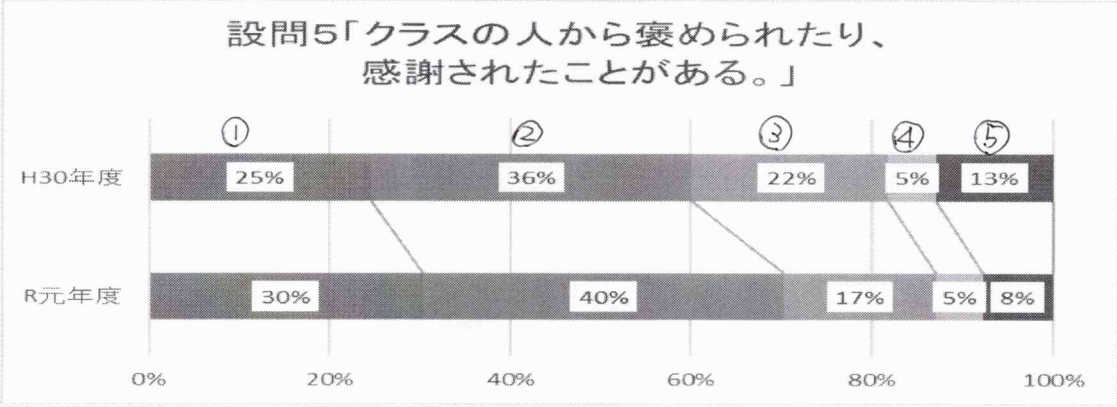
5．研究のまとめ

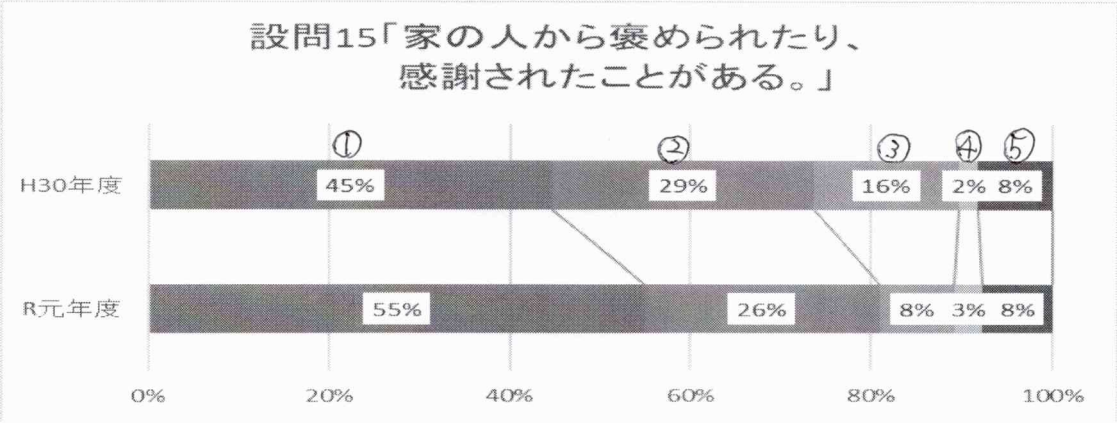
自己有用感に関する全校生徒対象アンケートの実施　※ P19【資料②】参照

【アンケート質問項目】

1　私はクラスの役に立っていると思う
2　私はクラスの人を信頼している
3　私はクラスの人と一緒にいると安心する
4　私はクラスの人から信頼されていると思う
5　私はクラスの人から褒められたり感謝されたことがある
6　私は先生の役に立っていると思う
7　私は先生を信頼している
8　私は先生と一緒にいると安心する
9　私は先生から信頼されていると思う
10　私は先生から褒められたり感謝されたことがある
11　私は家の人の役に立っていると思う
12　私は家の人を信頼している
13　私は家の人と一緒にいると安心する
14　私は家の人から信頼されていると思う
15　私は家の人から褒められたり感謝されたことがある
16　私は地域の役に立っていると思う
17　私は地域の人を信頼している
18　私は地域の人から褒められたり感謝されたことがある

■①よく当てはまる
■②やや当てはまる
■③あまり当てはまらない
■④まったく当てはまらない
■⑤判断できない





平成３０年度と令和元年度のアンケート結果を考察すると、全体的に「クラス」、「先生」、「家の人」に対しては自己有用感が高くなっている傾向が見られた。特に、設問５や設問１５の「クラスや家の人から褒められたり、感謝されたことがある。」の２つの項目が顕著であった。しかし、「地域」に対する項目については自己有用感の伸びはあまり見られなかった。これらのアンケート結果をまとめ、「研究の成果及び今後の課題」を全職員が共有した。

（１）研究の成果

○各教師が意識して自己有用感を高めるために「①誰もが自信を持って参加できるクラス（居場所）づくり」、「②自己有用感を育む授業づくり」「③地域との関わりを通して、社会に貢献する場づくり」を中心に、日ごろから様々な場面で取り組んだ。その結果、昨年度に比べると「クラスの役に立っていると思う。」や「先生の役に立っている。」等の自己有用感を高めることができた。

○防災学習等を通して、生徒一人ひとりに「自分も市民の一員であり、有事の時には自分も地域のために何か貢献できる。」という意識を持たせることができた。

○生徒を指導していく際、「個」で何かを成し遂げさせるだけではなく、「個の集合体」として取り組ませて自分も他人から必要とされていると実感させることで、「自己有用感」を育むことができた。

○全教師が、教科に関係なく指導案検討会へ参加することで、研究授業を行う教師のみが授業を考えるのではなく、それぞれが自分事として捉えることができた。その結果として、生徒だけでなく教師自身も「自己有用感」を育むことができ、学校全体で一つになることができた。

（２）今後の課題

○行事等の大きな活動を通して培った「自己有用感」を日常生活の中でも育み、生徒が自信を持って社会にとびだせるような更なる取り組み。

○地域との関わりが、まだまだ不十分と思われる。地域の人と接する機会をどのように増やしていくか、ＣＳ（コミュニティースクール）の導入など、地域にひらかれた学校となるような取り組み。

○今後も“豊かな心を持つ生徒の育成”に向けて、学級経営・授業改善など教師の指導力向上のためさらなる研修の継続。

第1回 校内研修会　【資料①】

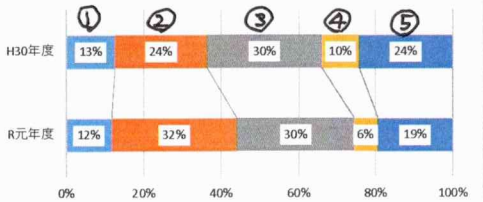
『目指す生徒像について』まとめ

それぞれの先生方の考えを共有でき、とても貴重な時間となりました。
これから1年間、どうぞよろしくお願いします

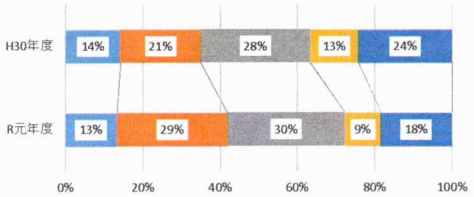
- 小さなことでもいいので本当の思いやりをもつ生徒
- 相手の気持ちを考えて発言や行動できる
- 気付いて行動できる
- 思いやりのある
- 相手の個性を認め尊重できる生徒
- 様々な取り組みを頑張ることのできる生徒（当たり前のことを当たり前に）
- あたたかい聴き方ができる
- 自分の気持ちを言葉で伝えられる
- 規範意識を高く持ち目標に向かって努力できる
- 相手のことを考えて行動することのできる
- 人の役に立つことができる
- 正しい判断ができる
- 自主自律、思いやり
- 自分も他人も大切に出来る生徒
- けじめがついていて他人に気を配ることのできる優しい生徒
- 自分の意志で行動する
- T.P.Oに合った言動がとれる
- 自立、自律ができる
- 感謝と思いやりの心を持った
- 人の話を声にしっかりと耳を傾けることができる
- 自主的に取り組む
- 当たり前のことを当たり前にできる生徒
- 自己理解と社会性
- 思いやる気持ちをもつ
- 自らの考えを他者と共有できる
- 根拠をよく考えて行動する
- あたり前のことができる
- 自分自身を客観的に見られる
- 周りに優しくなれる
- 自ら学び互いに高め合う子
- 礼儀の心、至誠の心を持つ
- あたりまえのことがあたりまえにできる
- 地域や社会に貢献できる生徒

【資料②】　令和元年度　校内研究会　自己有用感に関するアンケート　集計結果【全校生徒】

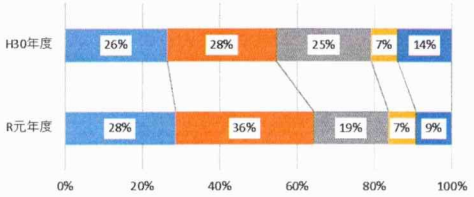
設問1「クラスの役に立っていると思う。」



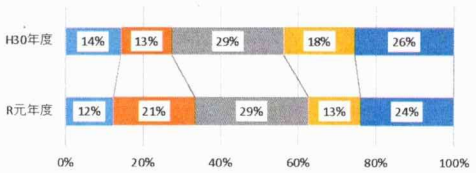
設問6「先生の役に立っていると思う。」



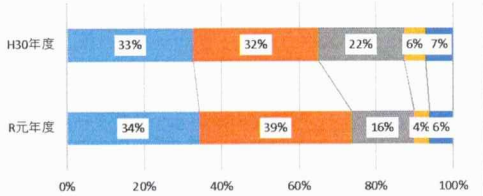
設問11「家の人の役に立っていると思う。」



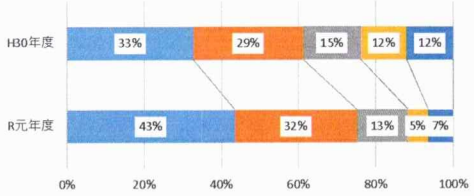
設問16「地域の人の役に立っていると思う。」



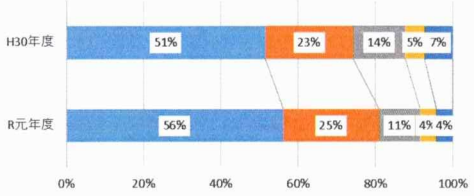
設問2「クラスの人を信頼している。」



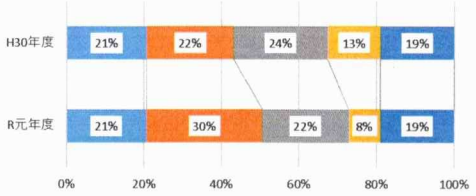
設問7「先生を信頼している。」



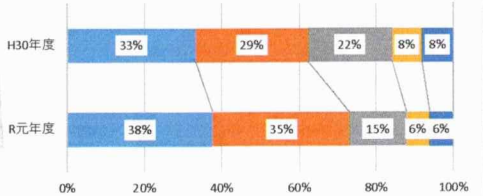
設問12「家の人を信頼している。」



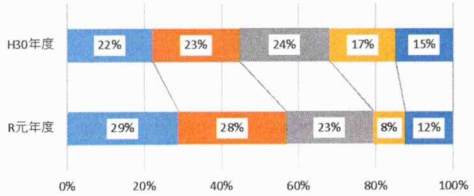
設問17「地域の人を信頼している。」



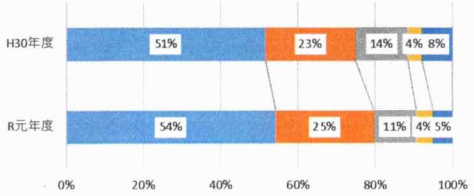
設問3「クラスの人と一緒にいると安心する。」



設問8「先生と一緒にいると安心する。」



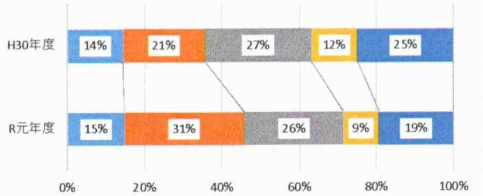
設問13「家の人と一緒にいると安心する。」



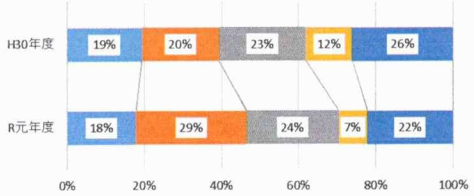
回答数
H30年度　503人
R元年度　524人

- ①よく当てはまる
- ②やや当てはまる
- ③あまり当てはまらない
- ④まったく当てはまらない
- ⑤判断できない

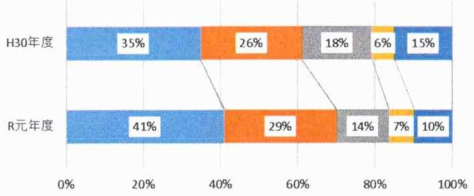
設問4「クラスの人から信頼されている。」



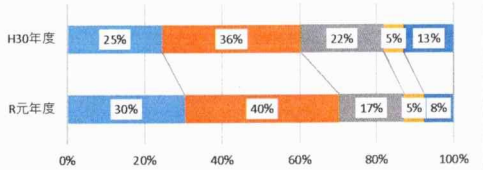
設問9「先生から信頼されていると思う。」



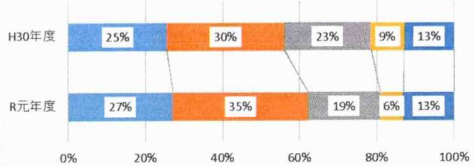
設問14「家の人から信頼されている。」



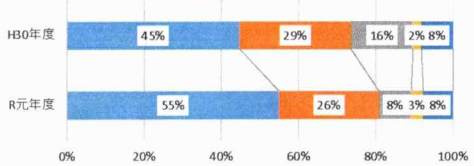
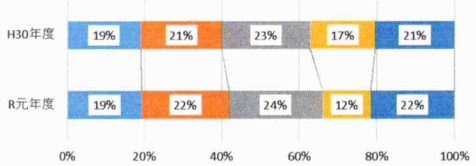
設問5「クラスの人から褒められたり、感謝されたことがある。」



設問10「先生から褒められたり、感謝されたことがある。」



設問15「家の人から褒められたり、感謝されたことがある。」



設問18「地域の人から褒められたり、感謝されたことがある。」